

—生活文化を通してのファッションコーディネート—

山岸 裕美子 (群馬社会福祉短期大学)

【目的】人は服飾を装うことにより自己表現を行うが、それがより納得のいくものであり、自信の持てるものである必要がある。本研究においては、「生活文化」に対する知識や経験の豊富な高齢者ならではの特性を生かし、これを用いた衣服の工夫の働きかけを行い、内面的充足感獲得までの過程を分析した。

【方法】前回、前々回の発表に引き続き、高齢者に対しファッションコーディネートの働きかけと援助を行った。今回は、〔①文化的行事に対する気分を取り入れた装いの工夫〕や、〔②和服の文化を生活に取り入れ自己表現を行うこと〕を軸として据えた。対象者は特別養護老人ホーム利用者を中心とした。

【結果】①の働きかけについては、行事の背景にある文化的ニュアンスを服装に表現することで、共通の気分を高め合うことに繋がっていった。また、②の“和風”としてとらえられる文化を装いに表現することは、いわば心の“和(やわらぎ)”にも通じるものを生み出すこととなった。停滞しがちな老人施設の生活の中で、最も身近な存在である衣服という場において満足感を見いだすことが、精神の活性化を起し、生きる意欲をももたらしたといえる。